

# 大豆

## (1) 播種前および播種後出芽前茎葉処理剤

薬剤名	成分名	含有 (%)	備考
サンダーボルト007	グリホサートイソプロピルアミン塩	30	①展着剤の加用は必要ない。 ②散布適期は雑草生育期(草丈30cm以) ③多年生雑草およびツユクサ科雑草を主体に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用する。 ④速効性と移行性の作用を配合。
	ピラフルフェンエチル	0.16	
ラウンドアップマックスロード	グリホサートカリウム塩	48	①展着剤の加用は必要ない。 ②効果完成まで日数を要するため、誤って散布しない。

## (2) 播種後土壌処理剤 (その1)

薬剤名	成分名	含有 (%)	備考
エコトップP乳剤	ジメナミドP	8.5	①砂質土壌では使用しない。 ②大豆出芽後は使用しない。
	リニuron	12	
【他の剤型】 細粒剤F			
クリアターン乳剤	ベンチオカーブ	50	①砂質土壌では使用しない。 ②大豆出芽後は使用しない。
	ベンチメタリン	5	
	リニuron	7.5	
【他の剤型】 細粒剤F	ベンチオカーブ	8	
	ベンチメタリン	0.8	
	リニuron	1.2	
サターンバアロ乳剤	プロメリン	5	①イネ科雑草に比べ広葉雑草は効果が劣るので、広葉優先圃場では処理量を多くす ②大豆出芽後は使用しない。
	ベンチオカーブ	50	
	プロメリン	0.8	
	ベンチオカーブ	8	
【他の剤型】 粒剤			
トレファノサイド乳剤	トリフルラリン	44.5	①ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果が劣るので優占圃場では使用しない。 ②砂質土壌では使用量を登録範囲内の低薬量を選ぶ(乳剤)
	トリフルラリン	2.5	
【他の剤型】 粒剤2.5			
フルミオWDG	フルミオキサジン	50	①1年生広葉雑草への効果は高いが、イネ科及び多年生雑草には効果が劣るので優占圃場では使用しない。 ②砂土での使用は避ける(薬害)。 ③大豆出芽後は使用しない。 ④散布に用いた器具類に残ったフルミオWDGは微量でも他作物に影響を及ぼす可能性があり、フルミオWDG洗浄剤を使用して ⑤水田に流入すると、稲が枯れるので十分注意する。

# 大豆

## (2) 播種後土壌処理剤 (その2)

薬剤名	成分名	含有 (%)	備考
ブロールプラス乳剤	ジメナミドP ペンディメタリン リニユロン	6.7 6.5 11.4	①砂質土壌では使用しない。 ②大豆出芽後は使用しない。 ③本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので注意する。
ラクサー粒剤 【他の剤型】 乳剤	アラクロール リニユロン  アラクロール リニユロン	4 1.04  30 12	①砂質土壌では使用しない。 ②イネ科、広葉雑草に幅広く効果、残効長 ③本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので注意する。

## (3) 生育期全面処理剤 (その1)

薬剤名	成分名	含有 (%)	備考
セレクト乳剤	クレトジム	24	①イネ科雑草全般に効果が高く、スズメカビエラに対しても効果が高い。 ②広葉雑草、カヤツリガサ科には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用 ③雑草が大きくなると効果が低下するので適期を逸しないようにする。 ④やや遅効性で、効果の発現に時間がかかるので、誤って撒き直しをしないよう注意する。
大豆バサグラン液剤	ペンタゾナトリウム塩	40	①広葉雑草専用なので、イネ科雑草が混在する場合はイネ科雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 ②薬害が発生しやすいので使用基準を特に守り重複散布を避ける(薬害)。 ③本県の主要品種の薬害発生は軽微(「すずおとめ」はやや発生しやすい)。 ④殺虫、殺菌剤との混用は避ける(薬害)。 ⑤ナブ乳剤との混用は効果が低下する。
ナブ乳剤	セトキシジム	20	①スズメカビエラを除く1年生イネ科雑草に対して効果が高い。 ②広葉雑草、カヤツリガサ科には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用 ③雑草が大きくなると効果が低下するので適期を逸しないようにする。 ④やや遅効性で、効果の発現に時間がかかるので、誤って撒き直しをしないよう注意する。 ⑤大豆バサグランとの混用は効果が低下する。

# 大豆

## (3) 生育期全面処理剤 (その2)

薬剤名	成分名	含有 (%)	備考
パワーガイザー液剤	イマザモックスアンモニウム塩	0.85	<p>①1年生雑草に有効。難防除雑草(帰化アサガオ類や広葉フウリンホオズキなど)に対する効果が高い。</p> <p>②散布可能期間が短いこと、場合により他剤との体系防除が必要なことに留意す</p> <p>③雑草発生前の散布は効果が劣り、雑草の生育が進むと除草効果が低下するので、使用時期を逸しないように注意する。</p> <p>④砂土では使用しない(薬害)</p> <p>⑤有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は薬害の恐れがあるので避ける。</p> <p>⑥高薬量または初生葉期以降の散布では薬害が発生するおそれがあるので使用量・使用時期を遵守する。</p> <p>⑦展着剤は加用しない。</p> <p>⑧遅効性</p>
ポルトフロアブル	キサロホップ <sup>®</sup> エチル	7	<p>①スズメカビラを除く1年生、多年生のイネ科雑草に対して効果が高い。</p> <p>②広葉雑草、カヤツリカサ科には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用</p> <p>③やや遅効性で、効果の発現に時間がかかるので、誤って撒き直しをしないよう注意する。</p> <p>④展着剤は加用しない。</p> <p>⑤大豆の葉に褐点ができる場合があるが、その後の生育に影響はない。</p> <p>⑥少量散布の場合は、専用ノズルを使用</p>

## (3) 生育期全面処理剤 (その2)

薬剤名	成分名	含有 (%)	備考
ワンサイドP乳剤	フルアジホップ <sup>®</sup> P	17.5	<p>①スズメカビラを除く1年生、多年生のイネ科雑草に効果が強く、地下茎にも作用するので効果が安定する。</p> <p>②広葉雑草、カヤツリカサ科には効果が期待できないので、イネ科雑草優占圃場で使用</p> <p>③有効成分の吸収は速やかであるが、効果の発現が緩慢で枯死まで2~3週間かかる</p> <p>④少量散布の場合は、専用ノズルを使用</p> <p>⑤多年性には展着剤を加用すると効果的</p>

# 大豆

## (4) 生育期雑草畦間処理剤

薬剤名	成分名	含有 (%)	備考
ザクサ液剤	ゲルホシネートPナトリウム塩	11.5	①吊り下げノズルや飛散防止カバー等を用いて、大豆に飛散しないように畦間に散布する。 ②大豆の薬剤付着部分は薬害を生じる。
サンダーボルト007	グリホサートイソプロピルアミン塩 ピラフルフェンエチル	30 0.16	①吊り下げノズルや飛散防止カバー等を用いて、大豆に飛散しないように畦間に散布する。 ②大豆の薬剤付着部分は薬害を生じる。 ③豆類(種実)登録
大豆バサグラン液剤	ペンタゾナトリウム塩	40	①広葉雑草専用なので、イネ科雑草が混在する場合はイネ科雑草に有効な除草剤との体系で使用する。
バスタ液剤	ゲルホシネート	18.5	①吊り下げノズルや飛散防止カバー等を用いて、大豆に飛散しないように畦間に散布する。 ②大豆の薬剤付着部分は薬害を生じる。
ロロックス	リニuron	50	①吊り下げノズルや飛散防止カバー等を用いて、大豆に飛散しないように畦間に散布する。 ②大豆の薬剤付着部分は薬害を生じる。 ③雑草茎葉処理効果の他、土壌処理効果を有す
ワンクロスWG	フルアジホップP リニuron	7 30	①吊り下げノズルや飛散防止カバー等を用いて、大豆に飛散しないように畦間に散布する。 ②大豆の薬剤付着部分は薬害を生じる。 ③雑草茎葉処理効果の他、土壌処理効果を有す

# 大豆

## 大豆除草剤

### 1. 使用上の注意

- (1)指定された使用時期を逸しないように散布する。
- (2)碎土、整地はできるだけいねいに行い、土壌表面をなるべく均平にする。
- (3)なるべく細かく砕いた土でいねいに覆土し、覆土深は必ず2～3cmとする。
- (4)周辺作物に散布液がかからないように、均一に散布する。
- (5)土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣ることがあるので、登録の範囲内で希釈水量を多めに散布する(乳剤、水和剤)か、適度に湿っている時に使用する(粒剤)。
- (6)排水不良田や散布前後に激しい降雨が予想される時には使用をさける(薬害)。
- (7)散布時の強風や重複散布による散布ムラに留意する。

### 2. 大豆の主要雑草と防除対策について

#### (1)メヒシバ・オヒシバ

【生態】イネ科、一年生。ノビエと並び夏作を代表する強雑草。

【防除】播種後土壌処理剤で十分に抑制出来なかった場合は、イネ科雑草に効果のある中期処理剤を登録の

#### (2)ツユクサ類

【生態】ツユクサ科、一年生。「ツユクサ」「マルバツユクサ」「カロライナツユクサ」等があり、長期間にわたりダラダラと発生するため防除しにくく、近年被害が増えている。

【防除】発生深度が深いため土壌処理剤の効果は低い。ケルホシネート(非選択性除草剤)の畦間処理や、ベンタゾンやフルチアセットメルの茎葉処理による防除効果が高い。

#### (3)ホオズキ類

【生態】ナス科、一年生。「ヒロハフウリンホオズキ」「ホソバフウリンホオズキ」等があり、種子は小さく、土中の比較的浅い位置から発生するため土壌処理剤の防除効果は高い。大豆収穫時に、茎や果実の水分により汚染粒の原因となる。

【防除】圃場周辺で見かけたら、結実する前に手取り除草する。ベンタゾンの効果は不十分で、リニユロンの畦間処理

#### (4)アサガオ類

【生態】ヒルガオ科、一年生。種子が大きく土中の深い場所から発生し、発生期間が長く土壌処理剤の効果は低い。つる化すると中期除草剤の効果も低い。蔓延すると防除困難。

【防除】圃場周辺で見かけたら、結実する前に手取り除草する。圃場内に蔓延した場合、土壌処理+ベンタゾン茎葉散布(大豆2葉期)+フルチアセットメル茎葉処理(ベンタゾン処理の1週間後)による体系処理で防除を徹底する。

#### (5)ヒユ類

【生態】ヒユ科、一年生。「ホソアオゲイトウ」「ノゲイトウ」等があり草丈が高い。大豆収穫の障害物、汚損粒の原因となる。

【防除】除草剤による防除は土壌処理剤と生育期の茎葉処理剤を基本とする。ベンタゾンの効果は不十分で、フルチアセットメルの茎葉処理による防除効果が高い。

大分県農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループのホームページにて、大豆作難防除雑草についての発生実態と対策等について成果情報を公開しているため参考にすること。

ホームページアドレス <https://pref.oita.jp/soshiki/15084/>